

豊島区学校施設等長寿命化計画 概要版

1. 学校施設の長寿命化計画の背景・目的

■背景・目的

学校施設は未来を担う子どもたちが学び、生活する場であり、災害時には地域住民の避難場所としての役割も果たします。したがって、学校施設を適切に管理することで、安心安全な状態を維持していくことが非常に重要です。また、時代のニーズや要請にあわせた教育環境を整えていくため、学校施設の躯体や設備を適切に更新していく必要があります。

豊島区の学校施設については、「豊島区立小・中学校改築計画」に基づき、着実に学校改築を進めるとともに、予防保全に基づいた計画的な施設改修を実施していますが、国からの要請を踏まえ、長寿命化改修も含めた老朽化対策や施設更新を今後も計画的に進めていくことを目的として、「豊島区学校施設等長寿命化計画」（以下、「本計画」とする。）を策定します。

■計画期間

本計画の期間は、**令和4年度～令和13年度までの10年間**とします。

ただし、区の基本計画との連動を確保し、財政状況の動向や国の補助制度の変更、園児・児童・生徒数の推移といった教育環境を取り巻く変化に柔軟に対応するため、5年後の令和8年度を目途に本計画の見直しを行います。

■対象施設

本計画における対象施設は、小学校22校、中学校8校、幼稚園3園の計33施設とします。

このうち平成9年1月策定の「豊島区立小・中学校の適正化 第1次整備計画」及び平成20年7月策定の「豊島区立小・中学校改築計画」に基づいて、改築済及び改築予定の学校施設は小学校5校、中学校6校となっています。

2. 学校施設の現状

■学校施設の運営状況等

①園児、児童、生徒数の現状（平成13年度から令和3年度までの推移）

小学校	平成13年度と比較して、約27%の児童数増加
中学校	平成13年度と比較して、約12%の生徒数減少
幼稚園	平成13年度と比較して、約53%の園児数減少

②児童、生徒数の将来推計（令和9年度の想定）

小学校	令和3年度と比較して、約6%の児童数増加
中学校	令和3年度と比較して、約11%の生徒数増加

■学校改築の経緯

既存の改築計画などに基づき、令和3年度までに小学校4校、中学校5校の改築を終えています。改築の際には例外なく敷地外に仮校舎を設けています。

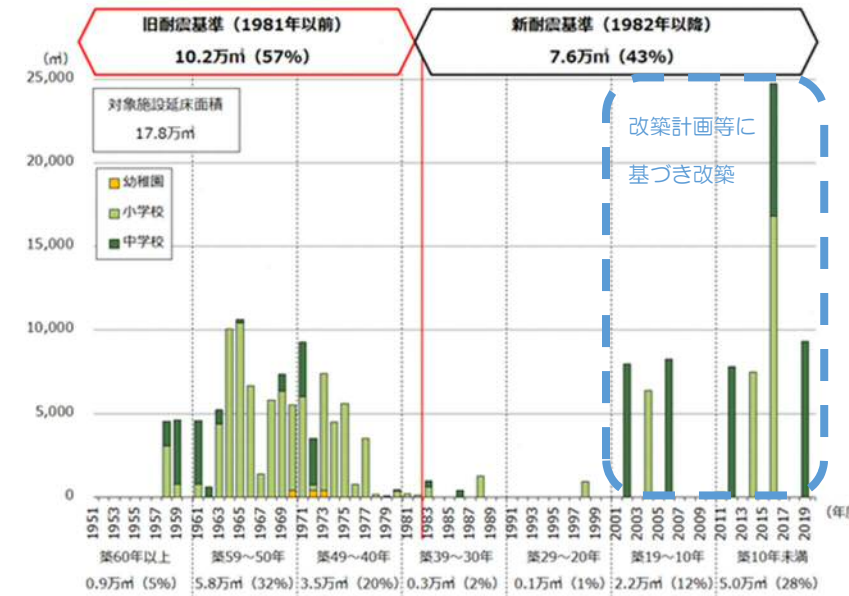
改築校	竣工年度	改築校	竣工年度
千登世橋中学校	平成13年度	池袋本町小学校	平成28年度
南池袋小学校	平成15年度	池袋中学校 (小中連携校)	
明豊中学校	平成17年度	巣鴨北中学校	令和元年度
西池袋中学校	平成24年度	池袋第一小学校	令和4年度(予定)
目白小学校	平成26年度	千川中学校	令和8年度(予定)
池袋第三小学校	平成28年度		

2. 学校施設の現状

■学校施設の老朽化状況

①学校施設の保有状況

＜棟ごとの築年数別保有延床面積＞



＜未改築校一覧＞

施設名	最古棟整備年度 (築年数)	平均築年数
仰高小学校	S47 (49)	49
駒込小学校	S39 (57)	51
巣鴨小学校	S33 (63)	53
清和小学校	S36 (60)	53
西巣鴨小学校	S33 (63)	54
豊成小学校	S48 (48)	48
朋有小学校	S40 (56)	51
朝日小学校	S40 (56)	52
池袋小学校	S38 (58)	48
高南小学校	S34 (62)	51
長崎小学校	S38 (58)	49
要小学校	S39 (57)	52
椎名町小学校	S33 (63)	56
富士見台小学校	S44 (52)	45
千早小学校	S43 (53)	51
高松小学校	S41 (55)	49
さくら小学校	S44 (52)	50
駒込中学校	S33 (63)	51
西巣鴨中学校	S34 (62)	55
西巣鴨幼稚園	S45 (51)	51
池袋幼稚園	S48 (48)	48
南長崎幼稚園	S47 (49)	49

②学校施設の老朽化状況

豊島区では予防保全の考え方を基本として計画的な改修工事を行っていることから、学校施設の健全性はおおむね保たれています。

しかし、各学校施設の築年数が経過しているため、客観的な指標に基づき、各施設の老朽化状況について、学校施設台帳や耐震診断報告書などを参考に総合的に分析し、各施設の老朽化状況を評価しました。

■学校施設整備等に関する経費の推移

豊島区では、「豊島区立小・中学校改築計画」などに基づき、合計9校の改築工事を実施してきました。コスト管理に加え、最新の学習環境を整えることや、地域の拠点として相応しい施設とするための工夫が重要です。

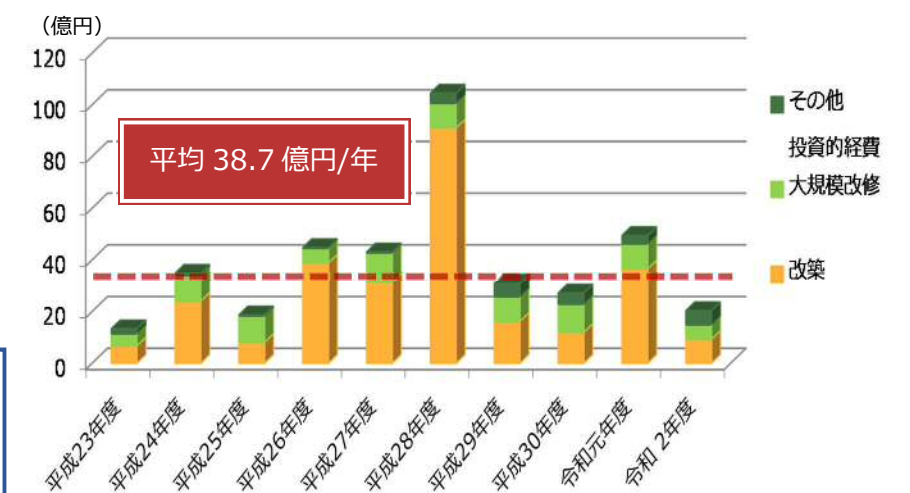
魅力ある学校改築

- 地域住民や学校関係者の意見を改築内容に反映するため、設計着手前に「建替えを考える会」を開催
- 設計はプロポーザル方式を採用することで、設計事業者の創意工夫ある提案を引き出す。

改築に伴うコストは年々増加傾向

引き続き、国や都の補助金や学校施設整備のための基金活用など、区財政への負担の軽減と平準化を図っていく必要があります。

平成23年度～令和2年度（10年間）の合計投資コストの推移



3. 学校施設整備の基本方針

■今後の学校施設整備について

①これまでの取り組み

改築済の学校施設

- 学びの拠点の充実 (ICT 環境及び学習情報センター整備等)
- 放課後対策事業の充実
- エコスクール化の推進
- 防災拠点や地域交流の場としての機能の充実

改築を迎えていない学校施設

- 設備等の劣化状況や耐用年数に応じた大規模改修
- 設備のレベルアップ (学校トイレの洋式化や体育館の冷暖房整備など)

②今後の学校施設整備の課題

- 質の高い教育の実現
- 仮校舎の確保
- バリアフリー化への対応
- 防災機能の強化
- 学校用地の拡張
- 感染症対策への配慮
- CO₂排出量削減
- 区立幼稚園の認定こども園化

③今後の学校施設整備の考え方について

1. 学校の適正配置

- 小学校を中心に児童生徒数の増加が見られるため、現時点においては、統廃合は予定していませんが、将来的な人口動態などを踏まえ、必要に応じて検討していきます。

2. 持続的な施設整備のための予算管理

- 財源の計画的な確保のため、義務教育施設整備基金の計画的な積み立てを目指していきます。

3. 校舎一体型の学校整備について

- 池袋本町小学校及び池袋中学校で施設を一体にしたことによる効果や、小中校舎一体型によるスケジュールやコストの優位性などを総合的に考慮しながら、新たな校舎一体型の学校整備について検討していきます。

■学校改築における仮校舎について

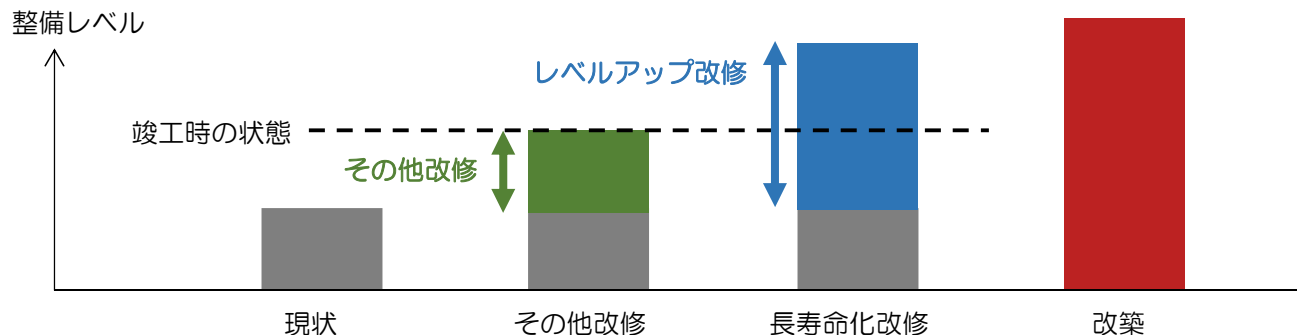
改築工事期間中の学習環境を可能な限り良好なものとするため、これまでの学校改築においては、例外なく校舎外に仮校舎を設けてきており、今後もこの方針を維持していく必要があります。

【計画期間中、仮校舎として利用可能な区有地】

- ①旧平和小学校 (千早 2-49-3)、②旧朝日中学校 (西巣鴨 4-9-1)、③旧真和中学校 (目白 5-24-12)

■施設の更新手法について

	手法	内容	工事期間	設備レベル	仮校舎	建物寿命
未改築校	改築	校舎を全て解体し、新たな校舎を整備	2 年半程度	新たな設備に更新する	必要	新築(80年以上寿命あり)
	長寿命化改修	校舎を解体せず、躯体や設備の改修を集中的に実施	4 年程度	可能な限り改築に準じた設備に更新する	不要	30 年程度延命を図る
全校	その他改修	老朽化した外壁・屋上防水や設備の一部を改修	半年～1 年程度	ほぼ向上なし	不要	延命効果なし



4. 計画期間中の改築・長寿命化改修等について

■改築計画

【旧平和小学校仮校舎】

- 旧平和小学校に千川中学校の仮校舎機能を整備する計画を踏まえ、周辺小学校の改築時にもその機能を活用していきます。
- 計画期間中には、旧平和小学校の仮校舎を活用して、要小学校の改築を行う予定です。計画期間前半で要小学校の改築プランを検討し、後半で改築事業への着手を目指します。
- 要小学校以降の改築校は計画期間中に検討します。

対象校	令和4年度～8年度	令和9年度～13年度
千川中学校	令和8年度竣工予定	
要小学校	改築プランの検討	改築事業への着手

【旧朝日中学校仮校舎】

- 学校改築時の仮校舎として活用する方針とします。改築校やスケジュールは計画期間中に検討します。

【旧真和中学校仮校舎】

- 周辺校の老朽化状況などを踏まえ、仮校舎地としての活用を継続して検討していきます。

■長寿命化改修の計画

- 現時点で仮校舎確保の目途が立たず、当面の間、改築が困難な学校を対象に実施します。
- 実施校については、計画期間中に検討します。

■その他の修繕及び改修計画

- 区内の人口増加や 35 人学級に関する方針なども踏まえ、各学校の教室数を確保するための改修工事なども計画的に実施します。
- 計画期間内に改築や長寿命化改修が困難な学校施設に対し、学校教育の ICT 化への対応を急ぐため、電子黒板やプロジェクターなどを教室に整備することを検討します。児童・生徒の学びと成長に関わる備品も整備を進めていきます。
- 区立幼稚園の認定こども園化を計画期間中に検討し、具体化を図ります。
- 校舎一体型の学校整備について検討していきます。

5. 本計画のフォロー体制

■日常点検の充実

「豊島区有施設の点検に関する要綱」などに基づき、日常点検を継続的に実施します。

■施設情報システムの有効活用

日常点検情報、改修履歴情報、過去の維持管理経費などを、今後の改修内容などに反映させていきます。

■コスト削減の継続的な検討

PPP や PFI、他の施設との複合化、施設の共用化などによる管理運営の効率化とコスト削減を検討します。

■公共施設等総合管理計画など区長部局との連携

豊島区公共施設等総合管理計画の見直しにあわせて、豊島区学校施設長寿命化計画も見直しを検討します。

■計画の定期的な見直し

原則として 5 年ごとに計画の見直しを図ります。